

事例名

地域経済分析システム RESAS を活用した事業計画書の作成

校種・学年

高等学校・3年

教科・科目・単元・題材

水産科・水産流通

学校名〈任意〉

京都府立海洋高等学校

事例報告者氏名〈任意〉

嶋田 周作

機能名 (アプリ名)

- ・分析サイト(地域経済分析システム RESAS ウェブサイト)
- ・参考資料(経済産業省中小企業庁 HP:小規模事業者持続化補助金 など)
- ・提出機能(学習支援アプリ:C-Learning)

ICT 活用のポイント

事業計画書作成に必要な出店候補地の選定、道路の交通量や旅行者数などの市場調査には地域経済分析システム RESAS を活用することで、具体的数値や今後の推定値を基にした計画書の作成が可能である。

加えて、授業支援アプリを活用することで、作成した計画書に対する個別の振り返りや生徒同士の共有が可能となり、協働的な学びの展開や個へ指導が可能となる。

活用場面

科目:水産流通 単元:マーケティング

これまで、生徒は出店や商圈の設定に関して、知識の習得に加えて実習製品の販売活動もしている。本事例では、実習製品が購入できるサテライト店舗の展開を想定した事業計画書の作成に取り組んだ。

① C-Learning の協働版内で参考サイトに関する情報共有

経済産業省中小企業庁の小規模事業者持続化補助金のサイトなどを参考にして、審査のポイントや申請可能な用途などの必要要件を確認した。【写真1】

■経済産業省中小企業庁 HP

URL (https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/shokibo/2025/250501jizoku_02.html)

■事務局 HP

ULR (<https://r6.jizokukahojokin.info/sogyo/>)

②RESAS を活用した市場調査

出店候補地の選定、人口や旅行者数など、各種データを検索して計画書を作成した。【写真2】

③計画書を提出し、作成資料の共有と評価【写真3】



1 課題の提示

2 RESAS の活用

3 提出物

授業者のコメント・児童生徒の主な反応等

RESAS を活用することで、周辺地域の経済状況や人口・経済力などを定量的に調べることができるため、校外活動による調査に頼らない取組が実現できる。また、地域経済の状況に触れることにより、生徒個人が起業を想定する中で感じた、今後の周辺地域の成長性などについて考える機会となり、地域産業の発展や抱える問題の改善に向けた活動を実施できた。

生徒の反応として、実習製品の販売実習を通じた経験から、生徒個人が興味を持つ産業に関連する事業計画書の作成に挑戦しようとするなど、活動の中で地域産業の理解を深め、主体的な学びを展開しようとする反応も確認された。